



さとたん通信

編集：鈴木

沢山池の里山で11年目の収穫

猛暑乗り越え 今年も豊作

5月半ばから6月にかけて、約1カ月間に渡り田植えが行われた沢山池の里山の田んぼの米は、豊作であった。その陰には日々、水の管理や田んぼの穴を見つけてはふさぐ会員の姿があった。

9月21日に、5段田んぼと南田んぼの稲刈りが行われたのを皮切りに、『親子で稲刈り体験イベント』『荻野小学校5年生の稲刈り体験』などが行われた。

今年も、うるち米が185kg、もち米が63kgと、例年に比べて豊作だった。猛暑で大変だった今年の夏を乗り越えたお米は、食べた人にパワーを与えてくれたことだろう。



5日前に南田んぼで刈り取られた稲束 (9月26日)

5段田んぼで刈り取った稲を束ねる会員 (9月21日)



昨年までは、手刈りの稲は紐などで束ねたが、今年は昨年の乾燥した稲わらを使って束ねた。次第に慣れ、束ねるスピードも強度も上がった。

荻野小5年生が稲刈りをした9月26日朝に、『みうぜん』の鈴木さんが観察用にと、解散地の沢山橋に仕掛けた網には、甲殻が6匹ほどのモクスガニが、2匹入っていた。モクスガニは、川にいるカニとしては大きめだ。子どもたちからは、「すごい!」「殻に毛が

モクスガニ住まう清流・荻野川

生えている」「荻野川に、こんな大きいカニがいるんだね」「食べられるの?」との感想や質問があった。幼生時は海で育ち、川を上ってきたモクスガニ。清流で過ごしおいしく食べられるそうだが、生態系保全のため観察後に荻野川に戻された。

昆虫希少種が生息する里山

秋が近づくと里山のオギやススキの草の陰からキリギリスやコオロギの鳴き声が聞こえてくる。8月23日の夜のこと「ジイ……」と力強く鳴いているカヤキリが、駐車場の前のオギの群落の中にいた。バッタの中では最大のキリギリスの仲間だ。カヤキリは、オギ・ススキ・ヨシの群落の管理が行き届いているところに生息していて、生息地から移動をしない種である。

里山再生が始まった十数年前はヨシの群落でも見られたが、セイタカアワダチソウに占有され環境が変わり、姿を消していた。全国的に減少している、神奈川県では、三浦半島の湘南国際村や沢山池の里山のように、ススキやオギの群落が一定の広さで残されてきたところでは目撃されていらない希少な種である。

5、6月にふ化、7、9月に羽化して、成虫の期間は2カ月ほど。オギの茎の葉鞘(ようしょう)に数個まとめて産卵し、卵で越冬する。今後は保護のために、刈り取った茅を6月のふ化が終わるまで一カ所に集めて置いておくことよいだろう。今年4月に、オギを食



カヤキリ 8月23日

べるシブイロカヤキリを初めて発見し、8月には、メダケを食べているヒサゴクサキリを7年振りに見つけた。

イネ科植物を食草とするバッタの様子から、生物保全のための草地の適切な管理がなされてきていると思われる。(宮原)

収穫祭手作り甘味なども好評

11月2日に行われた里山収穫祭には、延べ150人近くが集まった。9臼の餅を振る舞い、テント内では、会員が味付けや注文に応じていた。



朝に仕掛けた網に入っていたモクスガニ2匹 (9月26日)

土手の護 10年前

里山入り口の土手の階段ができたのは、2014年11月8日である。収穫祭を初めて開催するために、階段があった方がよいだろうということで作られた。



けんちん汁や、家で煮たり作ってきたりした栗や手作り芋ようかん・ヨモギ餅なども好評で、あっという間になくなった。

編集後記

長坂に住む私は、参加した町民から、「温かいお餅がおいしかった!」来年も行きませうなど、里山メンバーへのメッセージをお預かりしています。この紙面にてお伝えします。(鈴木)